

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2008 ～ 2009
 課題番号：20730399
 研究課題名 (和文) ソーシャルワーカーが効果的に自殺対策に取り組むための態度に関する研究
 研究課題名 (英文) A Study on attitudes of social workers toward suicide
 研究代表者
 小高 真美 (KODAKA MANAMI)
 国立精神・神経センター 精神保健研究所 老人精神保健部・外来研究員
 研究者番号：60329886

研究成果の概要 (和文)：

ソーシャルワーカーの自殺に対する態度 (認知・感情・行動の3成分で構成される概念) の実態を明らかにすることを目的として研究を実施し、以下の成果を得た。①システマティックレビューの手法を用いて、自殺に対する態度を測定する尺度として、多面的な要素を含みかつ汎用性の高いものを選出した、②Attitude towards Suicide scale (ATTS) 日本語版を開発した、③ソーシャルワーカーの自殺に対する態度に影響する要因を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

This study explored attitudes of social workers toward suicide. As its results, 1) multidimensional scales that measure attitudes toward suicide were selected through a systematic review; 2) Japanese version of Attitude towards Suicide scale was developed; 3) factors that affected attitudes of social workers toward suicide were identified.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：精神保健福祉

科研費の分科・細目：人文・社会

キーワード：自殺 態度 尺度 ソーシャルワーカー

1. 研究開始当初の背景

諸外国における先行研究では、自殺に対する態度 (認知・行動・感情の3要素で構成される概念) が、自殺ハイリスク者への支援行動に影響することが報告されている。しかし、ソーシャルワーカーの自殺に対する態度についての研究は国内でも海外でも実施され

ていなかった。そればかりか、態度を測定する尺度の開発についても、わが国では未着手だった。

2. 研究の目的

(1) これまで開発されてきた自殺に対する態度を測定する尺度の、開発経緯・信頼性・

妥当性に注目して各尺度の特徴を抽出し、自殺に対する態度の多面的要素を含みかつ実施可能性の高い尺度を選出した。

(2) Attitude towards Suicide scale (ATTS) に注目し、その日本語版を開発した。

(3) ソーシャルワーカーの自殺に対する態度に影響する要因を明らかにした。

3. 研究の方法

(1) 自殺に対する態度を測定する尺度の開発に関する研究を系統的にレビューした。

(2) ATTS のオリジナル製作者からの翻訳許可取得、日本語へ翻訳、自殺対策研究の専門家による検討、暫定的日本語版による試行調査、バックトランスレーション、オリジナル製作者との協議、最終加筆・修正を行った。完成した質問紙を、自殺対策に関する研修やセミナーの参加者 129 名に配布し回答を得て、データ解析を実施した。

(3) 自殺対策に関する研修やセミナーに参加したソーシャルワーカー 46 名を対象として、質問紙による予備的調査を実施した。使用した調査票は、自殺に対する態度を測定する ATTS 日本語版、基本属性、これまでの自殺に関わる臨床および個人的経験、自殺対策に関する研修やセミナー等への参加経験などの質問項目で構成した。

4. 研究成果

(1) 自殺に対する態度を測定する 18 尺度が選出され、うち、自殺に対する態度の多面的要素を含み、かつ汎用性の高い尺度として 3 尺度が選ばれた。信頼性や妥当性に関していくつかの課題はあるものの、ATTS は、臨床現場や地域での大規模研究で使用するにあたり、もっとも実施可能性の高い尺度であると考えられた。

(2) スウェーデンで開発された ATTS を日本で使用するにあたり、相応しくない表現等は特になかった。

(3) 临床上、9 割以上のソーシャルワーカーがサービス利用者の自殺念慮や企図、既遂を経験しているにもかかわらず、自殺対策関連の研修等への参加経験者は 5 割にとどまっていた。一方、自殺対策に関する研修等への参加経験があるソーシャルワーカーは、参加経験がない人に比べ、自殺に対してより適切な認識を持っていた。そのため、ソーシャルワーカーがより効果的に自殺対策に取り組むための教育的介入が重要であると考えられた。なお本調査を目的として、2980 名のソ

シャルワーカーを対象とした調査を実施し、データの収集を完了した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

Kodaka, M., Poštuvan, V., Inagaki, M., Yamada, M., A systematic review of scales that measure attitudes toward suicide, International Journal of Social Psychiatry, 査読有り、2010、Epub ahead of print

[学会発表] (計 4 件)

- ① Kodaka, M., Poštuvan, V., Inagaki, M., Yamada, M., A systematic review of scales measuring attitudes toward suicide, Asia Pacific Regional Conference of International Association for Suicide Prevention, 2008年10月31日～11月3日、Hong Kong Convention and Exhibition Center (香港)
- ② 小高真美, Poštuvan, V., 稲垣正俊、山田光彦、自殺に対する態度を測定する既存尺度の信頼性・妥当性・実施可能性の検討、第 33 回日本自殺予防学会、2009 年 4 月 17 日～18 日、大阪国際交流センター (大阪)
- ③ 小高真美, 稲垣正俊、山田光彦 Poštuvan, V., Renberg, ES、自殺に対する態度尺度 Attitude Towards Suicide (ATTS) 日本語版の開発、第 33 回日本自殺予防学会、2009 年 4 月 17 日～18 日、大阪国際交流センター (大阪)
- ④ 小高真美、ソーシャルワーカーが効果的に自殺対策に取り組むための態度に関する研究—自殺に対する態度研究のための予備的調査からの一考察、日本社会福祉学会第 57 回全国大会、2009 年 10 月 10 日～11 日、法政大学多摩キャンパス (東京)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小高 真美 (KODAKA MANAMI)

国立精神・神経センター精神保健研究所
老人精神保健部・外来研究員

研究者番号：60329886